

令和 8 年度事業計画書

(2026 年 1 月 1 日～2026 年 12 月 31 日)

I. 事業計画概要

石洞美術館は平成 18 年 4 月の設立から令和 8 年 4 月で開館 20 周年を迎えます。この間、令和 2 年 3 月 3 日から令和 3 年 4 月までコロナ感染予防のため休館もありましたが、またあらたに新人スタッフで令和 4 年 5 月から再開し、現在に至っております。

これまで開催してきた展覧会を振り返り、当法人設立の原点に立ち戻って、「美術工芸を通じて、国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する」ことを再確認し、目的達成のために事業を行ってまいります。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館事業

a. 展示計画

「中国陶磁展」 1 月 17 日(土)～4 月 19 日(日)

ご来館者の皆様からご要望が多かった、中国の陶磁器を展示致します。当館の所蔵する中国のやきものは、新石器時代の彩文土器から清時代の青花磁器まで幅広い時代のものが見られます。中国の長い歴史に育まれたやきものの流れに思いを馳せながら、ご観覧頂ければと思います。

「第 54 回伝統工芸日本金工展」 5 月 23 日(土)～6 月 19 日(金)

公益社団法人日本工芸会との共催の展覧会で、平成 24 年より石洞美術館で開催しており、本年度で 54 回を数えます。伝統を保持する事は、時代の要請に応えながら、新しい試みを続けていく事でもあります。

金属工芸品の未発表作品を全国から公募し、厳正な監査を経て入選した作品を展示します。現代の金工作品の素晴らしさに触れて頂きたいと思ひます。

「石洞美術館の 20 周年展」 9 月 1 日(火)～12 月 20 日(日)

石洞美術館は令和 8 年 4 月で開館 20 周年になります。この間に 52 回の展覧会を開催してきました。これまで開催した展覧会の中で、館蔵の主要作品を展示し、佐藤千壽の眼を通して集められた作品の魅力を味わって頂きたいと思ひます。

b. 地域との連携活動

- ・(公社)日本工芸会と共催の第 54 回伝統工芸日本金工展では美術館内での展示作品の解説を行い、区内の小、中学生には招待券を配布する予定です。
- ・(公財)足立区生涯学習振興公社と共催し、5 月 25 日(月)石洞美術館で子供の未来応援コンサートを開催する計画です。

c. 広報活動

- ・今年も美術館・博物館共通割引入場券「ぐるっとパス」に参加し、美術館、博物館に興味を持っている人が来館しやすいようにします。
「ぐるっとパス」は都内近郊の美術館・博物館の共通割引券で 100 カ所以上が参加加盟しています。
- ・国内の主な美術館・博物館の約 200 カ所に、展覧会の都度、ポスター・チラシを送付し掲示、配布をお願いしています。

d. 資料の収集

- ・魅力ある展示を行って行く為、資料収集方針にしたがって、資料収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

令和 7 年 11 月 4 日(金)に助成選考委員会を開催され、11 件の応募があり、下記 6 件が選考され、令和 8 年度の助成を行う予定です。

a. 高橋奈「変塗見本資料の基礎的調査」	助成金額	50 万円
b. 多田えり佳「キルンキャストイングにおける表現と技法の革新」	助成金額	40 万円
c. 矢島由佳「茶道及び裁縫を通じて伝承された紐結びに関する調査」	助成金額	50 万円
d. 小島みく「魚文様からみる備前磁器の市場適応」	助成金額	40 万円
e. 丸山智巳「東京藝大日韓卒業生による国際交流展」	助成金額	130 万円
f. 小川里枝「藍染めのアポレンカ展と関連ワークショップ」	助成金額	75 万円

(2) 表彰事業

淡水翁賞は、令和 8 年度で 42 回目を迎えます。第 42 回淡水翁賞の募集は 9 月に開始し、12 月で締め切りとし、令和 9 年 1 月に選考委員会を開催し、3 月に授賞式を行う予定です。

令和 6 年は 7 件の応募があり選考の結果、久野彩子さん、三島一能さん、半下石礼子さんが受賞され、令和 7 年 4 月 8 日に表彰式を行いました。